

(8) 人権教育研究会

会 長 山崎 源生 (県立中村中)
副会長 陸野 高俊 (中 筋 小)
事務局 久米田真吾 (中 村 中)

1. 研究主題 「人権教育における授業の創造」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和3年 8月6日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修 ○研修 新型コロナウイルス感染症に関する新しい人権課題について 講師 日本赤十字社高知県支部事業推進課長 吉岡 邦展 氏 ○質疑応答・指導案についての意見交換	中村中学校 3年教室	23名 参加
令和3年 11月4日(木)	幡多地区人権フェスティバル 人権授業指導案検討会	下田中学校 パソコン室	8名 参加

3. 活動内容

○夏季研修会【8月6日(金)】

研修：「新型コロナウイルス感染症に関する新しい人権課題について」

講師：日本赤十字社高知県支部 事業推進課長 吉岡 邦展 氏

①新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～

【病気そのものについて】

正しい知識で正しく予防していくことが重要

→感染者数だけではなく、感染の実態についても理解していく

一人一人の衛生行動の徹底

【病気に対する不安と恐れ】

気づく力・聴く力・自分を支える力を弱めていく

冷静な対応ができなくなることに繋がる

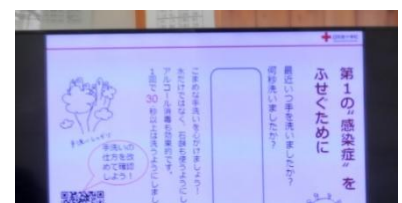
→自分を見つめる、普段と変わらず続けられることを確認する、自分の安全や健康のために

必要なことを見極めて自ら選択する

【嫌悪、偏見、差別】

不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強める

→「確かな情報」を拡める、差別的な言動に同調しない



- ・できる限り普段の生活を取り戻すことが大切。感染の状況と県のガイドラインに応じて不要不急の外出を控える。三密を避ける。自分のことだけでなく周りのことを考えた行動をする。
- ・これまでの人権課題と同様に、正しい知識に基づく行動・発言をする。不確かな情報を信用したり、興味関心から感染者を特定するような行動で周りの人々を傷つけることをしない。
- ・新型コロナウイルスについて、正しく恐れ、正しく予防していくことが大切。
- ・学校でできる感染対策を徹底していく。アルコール消毒やマスクを外す場面での行動への注意。
- ・新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！の冊子を使った学習を進める。

②各校の人権教育について

【東山小学校】

中村中学校区の小学校と中村中学校との4校交流で、小学校で学習する人権学習については統一できている。来年度からの校区に新しく加わる小学校について、周知が必要になる。

【八束小学校】

忠霊塔のことを学んでいくことで平和学習を深めることもできる。様々な視点から平和学習を学んでいくことが必要。

【中村中学校】

体育館を活用して、HUGを行った。実際に災害時にどのような人権課題があるのかを考えた。中学生から出た意見が貴重である。中学生がカードを考えることも自分事になる。

【具同小学校】

4年生でコロナに関する人権学習を行う予定。学習することで自分たちの生活を見直す機会にしている。

4. 今年度の成果と課題

- 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に関わる人権課題について学習を深めた。四万十市でも感染に対する恐れから、感染者に対する噂や根も葉もない話が聞こえ、人権教育の必要性があると考えられた。この状況の中、新型コロナウイルスに最前線で対応している日本赤十字社高知県支部から講師を招き、今の状況を題材にした人権教育の授業の創造を考えることができた。病気そのものから派生する人権意識、感覚の崩れを共通認識できたことで、生徒に自分事として考える授業を創る基盤ができた。
- 4校の人権学習の取組を紹介する中、小学校間や小中学校間の共通理解や学びの状態を知ることができたことは、系統性を持った人権学習に取り組み、充実した学習内容につながると思われる。しかし新型コロナウイルスの感染状況が悪化したことで、小学校・中学校間の人権参観日等への参加ができず、より深い連携ができなかったことが課題として挙げられる。
- 新しい人権課題について、それぞれの学校で学びを深める中、下田中学校の人権授業指導案検討会に参加できたことで、同和教育の必要性を再認識する機会となった。昭和・平成・令和と時代を重ねるにつれ、今の生徒の置かれている状況や同和問題との距離感も変化しているのではないかという意見もあった。SNSにおける差別等、児童生徒が直面しやすい場면을題材にするなど、更なる人権教育の充実につなげていきたい。